

「新市建設計画」を令和6年度まで5年間延長 合併特例債約7億円で武道場を建設へ

沼田市と白沢村、利根町の合併にともない策定された「新市建設計画」が、合併特例債の活用期限が5年間延長されたことにより、12月定例市議会の開会日に「新市建設計画」の変更が提案されました。

沼田市では、合併特例債を活用してこれまでに、テラス沼田整備事業、(仮称)利南運動広場整備事業、新給食センターの建設に活用してきましたが、合併特例債の活用期限が5年延長されたことにより、残額の約7億円を活用し武道館の建設が旧東原庁舎跡地(旧合同庁舎)ですすめられることになり建物の取り壊しがおこなわれています。

「新市建設計画」の5年間の延長にともない、財政計画も5年間延長され、令和6年度には計画がスタートした平成17年度と比較すると人件費、公債費、普通建設事業費は減少する計画となっています。

「核兵器禁止条約の調印・批准」を求める意見書提出を求める請願は継続

利根沼田平和委員会から提出された「核兵器の禁止条約の署名・批准」を求める意見書の提出を求める請願は、総務文教常任委員会に付託され17日、審査がおこなわれました。



「日本が率先して核兵器をなくそうと世界に言うべき」という採択を求める意見や、「核保有国が条約策定のプロセスに参加しておらず問題がある」として不採択を求める意見もあり、起立採決の結果、賛成3人、反対3人の同数となり、委員長の裁定で請願は継続審査となりました。

(仮称)利南運動広場整備事業の名称が利南運動公園になります

(仮称)利南運動広場の名称を利南運動公園とし、野球場とテニスコートの利用料金を決める沼田市都市公園条例の一部を改正する条例が、12月定例市議会初日に提案され、可決されました。

野球場の午前9時から午後5時までの利用料金は、6,160円で、放送設備利用料金が1,760円、スコアボード利用料金が1,760円です。

テニスコート1面は、午前9時から正午までと正午から午後3時までは、1,320円、午後3時から午後5時まで、午後5時から午後7時まで、午後7時から午後9時までそれぞれ880円です。(詳しくは、スポーツ振興課にお問い合わせください。)

防災対策、健康づくり、子どもの安全確保について一般質問

12月定例市議会の一般質問で大東議員は、自然災害と防災対策について、健康づくり、子どもの安全確保について市長、教育長に質問しました。



台風19号の対応について市長は、「避難勧告の発令、指定避難所6か所を解説し、概ね良好な対応がされた」との認識を示し、情報提供については、「緊急告知ラジオなどでおこなっている」と答えました。

2019年12月22日

NO. 634

日本共産党 大東のぶゆき議員活動地域後援会ニュース

やまびこ

発行所 沼田市下久屋町983 TEL23-1519 部内資料



日本は、目標引き上げの意思表明も温室効果ガス排出量を実質ゼロにする期限も示さず、世界の流れに逆らう姿勢が浮き彫りになりました。

こんにちは。スペインのマドリッドで開かれていた国連の気候変動枠組み条約第25回締約国会議(COP25)は2日間会期を延長し、温室効果ガス削減目標の引き上げを各国に促す文言が盛り込まれた成果文書を採択し、15日に閉会しました。

温暖化対策の国際的枠組み「パリ協定」は、今世紀末までの気温の上昇を2度未満、1.5度に抑えることをめざしていますが、現状では各国が国連に提出した排出削減目標をたえ達成しても気温上昇を3.2度に抑えることになりません。

またまとった成果文書は、温室効果ガス削減目標を引き上げることが求め、自発的な努力を促したもので、拘束力はありませんが、各国は来年、「パリ協定」にもとづき現行の目標を見直すことになっています。

こんにちは 大東のぶゆき です



続ぶらり散歩 めまた道 利根町あれこれ 特別編その四十五

追員の大国神社

明治時代になって、村社は一村一社が原則となり、神社の合併、合祀などの統合整理がすすめられましたが、旧利根村では、神社の伝統や地域の信仰などもあり、簡単に神社の統合整理はまともらなかったようです。



旧東村では、明治40年(1907)~45年(1912)に、一大字一社を存続させることになりました。

追員の大国神社は、明治43年(1910)に天文16年(1547)からこの場所にあった諏訪神社に熊野神社や山妻有大明神などを合併し大国神社(村社)となりました。

大島の若宮八幡

多那の大島にある十二宮には、石祠がいくつかあり、そのなかに、若宮八幡とよばれている石祠が祀られています。

むかし急に黒雲が湧き出し、大島に大雨がふり出した時、山の上に突然大蛇があらわれ、沢の近くに住んでいた若者を一呑みにしてしまいました。

村人たちは若者を供養しましたが、災害や不吉なことなどがおこるため石祠をつくり、若宮八幡と称し、村の鎮守である十二宮に合祀したと伝えられています。

